

第2章

優れた建築家の学歴・職歴

第2章 優れた建築家の学歴・職歴

2.1 調査の概要

2.1.1 調査の目的

第2章の目的は、1.7(1) で述べた「優れた建築家を育てる建築デザイン教育は存在するか?」という問題を明らかにし、それに基づいて、景観デザインのあり方：初期案の検証と改良への示唆を得ることである。

大学や職場での建築デザイン教育が優れた建築家の育成にどれだけ貢献しているのか、あるいは、優れた建築家は独学や偶然の産物なのか不明である。優れた建築家を多数輩出する大学や職場と、そうでない大学・職場があることはだいたい分かっているが、その差がどの程度有なのか不明である。もし有意な差があるのであれば、それは優れた教育とそうでない教育のレベル差があり、それが結果として人材輩出のレベル差に現れたと考えられる。

もし、優れた建築家を育てる建築デザイン教育が存在しないのであれば、景観デザイン教育も成立しない可能性が高い。また、建築デザイン教育から学べることは何もないかもしれない。

2.1.2 調査の内容と方法

まず、優れた建築家がどのような教育を受けてきたかを把握するため、学歴、職歴を調査する。また、収集したデータを数量化し、類により統計的に分析する。

(1) 優れた建築家とは誰か

優れた建築家の定義は様々であるが、ここでは建築に関する賞を受賞した建築家を優れた建築家とする。日本建築学会賞をはじめとする各種の建築賞は、権威のある建築家・建築研究者などからなる選考委員会によって選ばれた、優れた作品とその設計者を讃えるものである。

優れた建築家を定義づける、ある程度信頼性と客観性のある指標として、建築賞の受賞を採用する。

(2) 調査対象の建築賞

建築賞には、様々な種類があるが、ここで調査する建築賞を以下に示す。原則として日本全国の建築物を対象としているもので、かつ、実作を対象としている（構想・計画段階のものは含まない）ものを取り上げる。作品賞でないものや、個人を表彰しない賞は調査対象としない。

- ・ 建築学会賞（作品） 日本建築学会
- ・ 作品選奨 日本建築学会
- ・ JIA 新人賞 日本建築家協会
- ・ 日本建築士会連合会賞 日本建築士会連合会
- ・ 芸術選奨 文化庁
- ・ 公共建築賞 公共建築協会
- ・ 村野藤吾賞 村野藤吾記念会
- ・ 朝日賞 朝日新聞社

- ・日本芸術院賞 日本芸術院
- ・吉田五十八賞 吉田五十八記念芸術振興財団
- ・毎日芸術賞 毎日新聞社
- ・ブリッカー賞
- ・日本芸術大賞 新潮社
- ・日本建築構造技術者協会賞（JSCA 賞） 日本建築構造技術者協会
- ・松井源吾賞 事務局：新建築社

2.1.3 既往研究・参考文献

(1) 既往研究

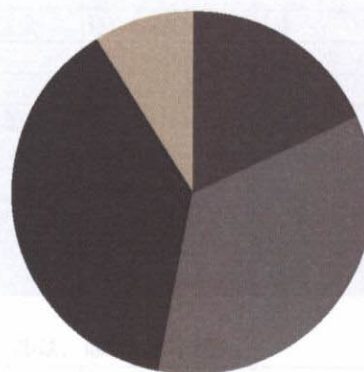
建築家の学歴・職歴などに関する既往研究としては、日本建築学会建築教育委員会生涯教育小委員会「建築界における専門人材のキャリア形成過程に関する調査研究」1995 がある。この研究では建築界の人材を、設計事務所、大手ゼネコン、中小ゼネコン、サブコン、町場工務店の5つに分類し、それぞれのキャリア形成過程について、アンケート調査している。

この調査では、「キャリア形成のために重要だった場所」と「その理由」についての調査が行われており参考になる（図 2-1）。それによれば、設計事務所で働く人の多くは、学校よりも、職場での経験や師匠から学んだことがキャリア形成に重要だったと答えている。また、その理由では、良い師匠と巡り会えたことが最も多数である。このように、建築家にとっては職場が重要な教育の場であることがわかる。

ただしこの調査の被験者は、東京建築士会名簿から無作為に抽出されている。そのため、優れた建築家のみを対象とした場合に同じ結果となるかどうか確認する必要がある。また、学校教育の有効性を直接質問したわけではなく、学校教育が重要でない理由も不明である。

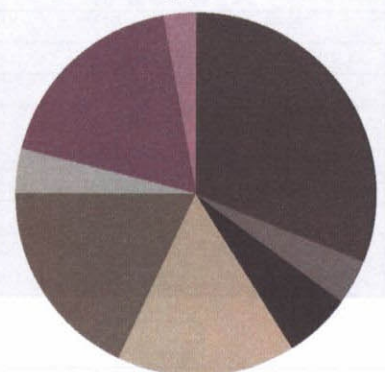
図 2-1 建築設計事務所職員のキャリア形成過程に関する調査結果（「建築界における専門人材のキャリア形成過程に関する調査研究」より抜粋）
サンプル数は 91 で、東京建築士会名簿より無作為抽出

キャリア形成に重要だった場所



- 学校での専門教育
- 親方や事務所などでの徒弟的修行
- 現場覚えや仕事経験
- その他

重要だった理由



- 良い師や仕事へのめぐりあい
- 恵まれた環境
- 厳しい教え
- 幅広いものの見方や知識
- いろんな仕事の経験
- 友人や仲間
- 自主的に勉強・努力してきた
- その他

(2) 参考文献

建築家の学歴・職歴をまとめた参考文献としては、次のものがある。

■「現代日本建築家名鑑 '98」工文社、1998

現在活躍中の建築家の住所、氏名、生年、所属、学歴・職歴・師弟関係などがまとめられている。

■松村貞次郎・近江栄・鈴木博之・藤森照信監修「新建築 1981 年 12 月臨時増刊『日本の建築家』」新建築社、1981

明治期から現代までの著名な建築家について略歴や作品の概要がまとめられている。また、建築家の師弟関係についても調査されている。

■「新建築」および「住宅特集」新建築社

これらの建築雑誌では雑誌に登場する建築家の略歴を巻末に掲載している。

■「人物情報データベース」

インターネットで公開（有料）されているデータベースで、「朝日新聞人物データベース」「日外有名人情報」「読売人物データベース」などがある^[1]。

建築賞に関する情報は、各々の賞を主宰する事務局から入手することができるが、日本建築学会賞、日本建築学会作品選奨、JIA 新人賞、日本建築士会連合会賞などはインターネットでデータベースが公開されている。

[1] @nifty 人物情報横断検索
<http://www.nifty.com/QXCJ/>

2.2 建築賞についての調査

2.2.1 調査対象の建築賞の概要

[2] 各賞の性格について資料編にまとめた

調査した建築賞の一覧を表 2-1 に示す^[2]。これらの賞を受賞した建築家の経歴を調査する。

ただし、日本建築構造技術者賞（JSCA 賞）と松井源吾賞の受賞者は、調査対象から外した。これは、2つの理由による。1つは、構造設計者の経歴はほとんど公開されていないこと。もうひとつは、今回は意匠関連の人材の教育についての調査が主眼であることである。また、作品賞でないものや、個人を表彰しないものも、調査対象から外した。さらに団体名で受賞している作品も除外した。

その結果、調査対象となる建築家は、表の背景がグレイの賞を受賞した建築家、346 人となる。

表 2-1 建築賞 一覧表

意匠関連の賞で、受賞人数の多い賞 以下の4つの賞の受賞者は、重複をのぞくと 333 人となる

賞	組織	年	延べ人数	重複を除いた人数	備考
JIA 新人賞	日本建築家協会	1982-2001	43	43	JAA(旧建築家協会) 新人賞を含む
日本建築学会 学会賞(作品)	日本建築学会	1949-2001	169	149	
日本建築学会 作品選奨	日本建築学会	1995-2000	128	115	
日本建築士会連合会賞 優秀賞・奨励賞	日本建築士会連合会	1986-2001	106	89	組織事務所の代表名がある

意匠関連の賞で、受賞人数の少ない賞

以下の賞を受賞した建築家の大部分は上記の4つの賞のいずれかを受賞している 例外は 13 人

賞	組織	年	延べ人数	重複を除いた人数	備考
芸術選奨 大臣賞・新人賞	文化庁	1950-2000	15	15	建築家のみを抽出
公共建築賞 建設大臣表彰	公共建築協会	1988-2000	11	9	組織を表彰 個人名が明らかなものは9人
村野藤吾賞	村野藤吾記念会	1988-2001	14	14	早大の村野賞とは別
朝日賞	朝日新聞社	1929-2000	5	5	建築家のみを抽出
日本芸術院賞・恩賜賞	日本芸術院	1941-2000	31	31	建築家のみを抽出
吉田五十八賞	吉田五十八記念芸術振興財団	1976-1993	19	19	建築家のみを抽出 賞が終了した
毎日芸術賞	毎日新聞社	1959-2001	21	21	建築家のみを抽出
ブリッカー賞	The Hyatt Foundation	1979-2001	3	3	日本人は3人
日本芸術大賞	新潮社	1969-2000	3		建築家のみを抽出 賞が終了した

構造関連の賞（構造関連の受賞者のプロフィールは、ほとんど不明）

賞	組織	年	延べ人数	重複を除いた人数	備考
日本建築構造技術者協会賞 (JSCA 賞)	日本建築構造技術者協会	1990-2001	36	36	構造家の賞 佳作・新人・特別賞すべて含む
松井源吾賞	事務局：新建築社	1991-2001	19	19	構造家の賞

その他

賞	組織	年	延べ人数	重複を除いた人数	備考
BCS 賞	建設業協会	1960-			組織を表彰 個人名が少ないので無視
日本建築協会賞		1987-			作品賞ではないので無視
アジア建築家会議					詳細不明

2.2.2 調査対象の建築家一覧

調査対象とする建築家の一覧を表 2-2 に示す。各建築家の詳細な経歴は、資料編に掲載した。

表 2-2 調査対象建築家一覧

氏名	賞
相田武文	JAA(旧建築家協会) 新人賞
青木淳	学会賞
青柳司	学会賞
赤松佳珠子	作品選奨
秋元敏雄	日本建築士会連合会賞 優秀賞
明智克夫	日本建築士会連合会賞 奨励賞
浅井潤一	日本建築士会連合会賞 奨励賞
浅石優	学会賞, 作品選奨
芦原太郎	JIA 新人賞, 作品選奨
芦原義信	学会賞, 芸術選奨大臣賞, 日本芸術院賞
東孝光	学会賞
阿部勤	JAA(旧建築家協会) 新人賞
安藤忠雄	学会賞, 芸術選奨新人賞, 公共建築賞建設大臣表彰, 朝日賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞, プリッカー賞, 吉田五十八賞
安東勝男	学会賞
飯田善彦	学会賞
飯塚宏	作品選奨
池上敏郎	日本建築士会連合会賞 奨励賞
池原義郎	学会賞, 公共建築賞建設大臣表彰, 日本芸術院賞
石井修	学会賞, 吉田五十八賞
石井和紘	学会賞
石田敏明	JIA 新人賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
石野治	日本建築士会連合会賞 奨励賞
石山修武	学会賞, 吉田五十八賞
出江寛	日本建築士会連合会賞 特別賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞2回, 吉田五十八賞,
磯崎新	学会賞2回, 芸術選奨新人賞, 朝日賞, 毎日芸術賞
磯矢孝	作品選奨
伊藤喜三郎	学会賞
伊藤恭行	作品選奨
伊藤鉦一	学会賞
伊藤達康	作品選奨
伊東豊雄	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 学会賞, 芸術選奨大臣賞, 村野藤吾賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
今井兼次	学会賞2回, 日本芸術院賞
今井裕夫	日本建築士会連合会賞 優秀賞
今村雅樹	JIA 新人賞, 作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
上原正行	日本建築士会連合会賞 優秀賞
牛田英作	作品選奨
内井昭蔵	学会賞, 公共建築賞建設大臣表彰, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞, 吉田五十八賞
内海慎介	作品選奨
内田祥哉	学会賞2回, 作品選奨
内田祥士	作品選奨
梅崎正彦	学会賞
浦辺鎮太郎	学会賞2回, 毎日芸術賞
江川直樹	日本建築士会連合会賞 優秀賞
江副敏史	作品選奨
海老原一郎	日本芸術院賞
圓堂正嘉	学会賞
遠藤秀平	日本建築士会連合会賞 奨励賞

氏名	賞
遠藤剛生	日本建築士会連合会賞 優秀賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
円堂政嘉	芸術選奨
延藤安弘	作品選奨
大江匡	JIA 新人賞
大江宏	学会賞, 芸術選奨, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞,
大倉達也	日本建築士会連合会賞 奨励賞
大倉靖彦	作品選奨
大沢秀行	学会賞
大沢弘	学会賞
太田和夫	学会賞
大高正人	学会賞, 芸術選奨大臣賞, 毎日芸術賞
太田隆信	学会賞
大谷幸夫	学会賞
太田博太郎	毎日芸術賞特別賞
大野秀敏	JIA 新人賞, 作品選奨2回
大村芙美雄	作品選奨
大山尚男	日本建築士会連合会賞 優秀賞
岡田恭平	学会賞
岡田新一	学会賞, 公共建築賞建設大臣表彰, 日本芸術院賞(恩賜賞)
岡部憲明	学会賞
岡村晶義	作品選奨
岡本慶一	作品選奨
奥井敬治	日本建築士会連合会賞 奨励賞
小栗正満	学会賞
尾崎勝	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
押野見邦英	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
鬼頭梓	学会賞, 作品選奨
小野威	作品選奨
小野道也	作品選奨
柿本英樹	作品選奨
竹内正光	学会賞
鹿島昭一	学会賞
柏木浩一	日本建築士会連合会賞 奨励賞
片山和俊	JIA 新人賞, 作品選奨
加藤正之	作品選奨
門谷和雄	日本建築士会連合会賞 奨励賞
金光秀泰	日本建築士会連合会賞 奨励賞
神家昭雄	作品選奨
狩野忠正	日本建築士会連合会賞 優秀賞3回, 吉田五十八賞
川合智明	日本建築士会連合会賞 奨励賞
川北英	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
川崎清	芸術選奨大臣賞
川村純一	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
菊竹清訓	学会賞, 芸術選奨, 毎日芸術賞
岸和郎	JIA 新人賞, 学会賞・作品選奨3回
岸田日出刀	学会賞, 日本芸術院賞
木島安史	学会賞, 村野藤吾賞
北川原温	JIA 新人賞, 学会賞, 作品選奨2回, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
北森俊妃護	日本建築士会連合会賞 奨励賞
北山恒	作品選奨
城戸崎博孝	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞

氏名	賞
木下庸子	JIA 新人賞, 作品選奨
木原千利	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
木村博昭	日本建築士会連合会賞 奨励賞
久慈次男	日本建築士会連合会賞 奨励賞
工藤和美	学会賞, 作品選奨2回
国方秀男	学会賞2回
久保清一	日本建築士会連合会賞 優秀賞
久保寺敏郎	日本建築士会連合会賞 優秀賞
隈研吾	学会賞, 村野藤吾賞
熊谷泰	学会賞
栗生明	JIA 新人賞, 学会賞, 作品選奨
黒川紀章	学会賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
黒川哲朗	公共建築賞建設大臣表彰
黒木浩	作品選奨
慶伊道夫	作品選奨
小泉雅生	学会賞, 作品選奨4回
香山壽夫	村野藤吾賞, 学会賞, 作品選奨2回
小倉善明	学会賞
小坂秀雄	学会賞
小嶋一浩	学会賞, 作品選奨3回
小島孜	学会賞
後藤達也	作品選奨
小林利助	学会賞
小宮山昭	JAA(旧建築家協会) 新人賞
近藤正志	日本建築士会連合会賞 優秀賞
近藤道男	日本建築士会連合会賞 優秀賞
齋藤修一	日本建築士会連合会賞 奨励賞
齋藤裕	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 学会賞, 作品選奨, 吉田五十八賞,
坂倉準三	学会賞2回
阪田誠造	学会賞, 村野藤吾賞, 日本芸術院賞, 吉田五十八賞
坂本昭	JIA 新人賞, 作品選奨, 日本建築士会連合会賞 奨励賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
坂本一成	学会賞, 村野藤吾賞
櫻井潔	作品選奨2回
佐々木郁夫	日本建築士会連合会賞 奨励賞
佐藤昌	日本建築士会連合会賞 奨励賞
佐藤武夫	学会賞2回, 日本芸術院賞
佐藤親英	作品選奨
佐野正一	学会賞2回
沢健一	学会賞
澤柳伸	学会賞
椎名英三	JIA 新人賞
重村力	作品選奨, 吉田五十八賞
篠原一男	学会賞, 芸術選奨大臣賞, 毎日芸術賞特別賞
清水繁	作品選奨
下野健一	作品選奨
十楽寺義彦	学会賞
白井晟一	学会賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
白江龍三	学会賞
末岡利雄	学会賞
末吉栄三	公共建築賞建設大臣表彰
杉浦克美	学会賞
杉原繁	日本建築士会連合会賞 奨励賞
鈴木恂	作品選奨
鈴木了二	学会賞
清家清	学会賞, 吉田五十八賞
清田育男	日本建築士会連合会賞 優秀賞
関原聡	作品選奨
妹島和世	JIA 新人賞, 学会賞
瀬野和広	日本建築士会連合会賞 奨励賞
瀬谷涉	学会賞

氏名	賞
仙田満	学会賞, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
仙波武士	作品選奨
曾根幸一	日本建築士会連合会賞 優秀賞
高木毅	学会賞
高崎正治	JIA 新人賞
高砂正弘	JIA 新人賞, 日本建築士会連合会賞 奨励賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
高須賀晋	学会賞
高瀬隼彦	学会賞
高田光雄	作品選奨
高野重文	日本建築士会連合会賞 奨励賞
高橋晶子	JIA 新人賞
高橋巧二	日本建築士会連合会賞 優秀賞
高橋てい一	学会賞2回, 芸術選奨大臣賞, 日本芸術院賞,
高橋寛	JIA 新人賞
高間三郎	作品選奨
高松伸	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 学会賞, 芸術選奨大臣賞
高宮真介	学会賞
瀧光夫	学会賞, 公共建築賞建設大臣表彰
田口勝己	日本建築士会連合会賞 優秀賞
田窪恭治	村野藤吾賞
竹腰健造	日本芸術院賞
竹下輝和	作品選奨
武田光史	学会賞
竹ノ内一雄	日本建築士会連合会賞 奨励賞
竹原義二	作品選奨3回, 村野藤吾賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞3回
多田善昭	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
巽和夫	作品選奨
田中周一	作品選奨
谷口吉生	学会賞2回, 公共建築賞建設大臣表彰2回, 作品選奨, 村野藤吾賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞, 吉田五十八賞
谷口吉郎	学会賞2回, 日本芸術院賞
田原賢	作品選奨
團紀彦	JIA 新人賞
丹下健三	学会賞3回, 朝日賞, プリッカー賞
丹田悦雄	作品選奨
近角真一	作品選奨
千葉学	JIA 新人賞, 作品選奨
坪井善勝	学会賞
手塚貴晴	JIA 新人賞, 作品選奨
手塚由比	JIA 新人賞, 作品選奨
寺本敏則	作品選奨
戸尾任宏	学会賞, 作品選奨
鳥海良晴	作品選奨
内藤廣	学会賞, 芸術選奨新人賞, 村野藤吾賞, 毎日芸術賞, 吉田五十八賞
長澤悟	学会賞
中嶋龍彦	日本建築士会連合会賞 奨励賞
長島孝一	JAA(旧建築家協会) 新人賞
中筋修	学会賞
永瀬克己	作品選奨
永田祐三	村野藤吾賞
仲威雄	学会賞
中原文雄	日本建築士会連合会賞 優秀賞, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
中村順平	日本芸術院賞
中村勉	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
長村寛行	日本建築士会連合会賞 優秀賞
中村昌生	日本芸術院賞
中村勇大	JIA 新人賞

氏名	賞
中屋敷公一	作品選奨
流政之	学会賞
新居千秋	学会賞, 吉田五十八賞
新田正樹	日本建築士会連合会賞 奨励賞, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
西澤文隆	学会賞, 日本芸術院賞
西沢立衛	学会賞
西島正樹	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 奨励賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
西田勝彦	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
西宮善幸	作品選奨
西村征一郎	日本建築士会連合会賞 奨励賞
野田俊太郎	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 作品選奨
野原文男	作品選奨
長谷川逸子	学会賞, 公共建築賞建設大臣表彰, 日本芸術院賞
畑利一	学会賞
馬場知己	学会賞
浜田徹	作品選奨
浜田信義	学会賞
早川邦彦	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 学会賞, 村野藤吾賞
早川正夫	作品選奨
林昌二	学会賞, 作品選奨
林雅子	学会賞, 吉田五十八賞
原広司	学会賞, 作品選奨, 村野藤吾賞
針生承一	作品選奨
春山一郎	学会賞
播繁	作品選奨2回
彦根明	日本建築士会連合会賞 優秀賞
平倉章二	作品選奨
平倉直子	JIA 新人賞, 作品選奨
廣瀬正人	作品選奨
深尾精一	作品選奨2回
深谷浩一	吉田五十八賞
福岡隆夫	日本建築士会連合会賞 優秀賞
福岡博次	学会賞
藤江澄夫	日本建築士会連合会賞 優秀賞
藤川壽男	学会賞
藤木隆男	作品選奨, 吉田五十八賞
藤島亥治郎	日本芸術院賞(恩賜賞)
藤森照信	学会賞, 作品選奨
船越徹	学会賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
古市徹雄	JIA 新人賞
古川裕久	学会賞
古川稔	日本建築士会連合会賞 奨励賞
古田敏雄	作品選奨
古見演良	作品選奨
古谷誠章	JIA 新人賞, 作品選奨2回
穂積信夫	学会賞
堀啓二	作品選奨2回
堀池秀人	日本建築士会連合会賞 優秀賞
堀尾浩	作品選奨
堀口捨巳	学会賞, 日本芸術院賞
堀越英嗣	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
堀場弘	学会賞, 作品選奨2回
本多友常	日本建築士会連合会賞 奨励賞2回, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
本多豊	作品選奨
前川国男	学会賞6回, 毎日芸術賞, 日本芸術院賞
前田健二郎	日本芸術院賞
前田昌宏	日本建築士会連合会賞 奨励賞

氏名	賞
横文彦	学会賞2回, 芸術選奨大臣賞, 公共建築賞建設大臣表彰2回, 村野藤吾賞, 朝日賞, 毎日芸術賞, フリッカー賞
真喜志好一	学会賞, 作品選奨
増沢洵	学会賞
増田仁	日本建築士会連合会賞 奨励賞
松井源吾	学会賞
松岡拓公雄	作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
松島勇雄	学会賞
松永安光	JIA 新人賞, 学会賞, 作品選奨
三井所清典	学会賞, 作品選奨
三島庄一	日本建築士会連合会賞 優秀賞
水谷碩之	学会賞
水野一郎	作品選奨2回
溝口駿	日本建築士会連合会賞 優秀賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
三谷幸司	日本建築士会連合会賞 奨励賞2回
南石周作	作品選奨
三宅敏郎	学会賞
宮崎浩	JIA 新人賞, 作品選奨
宮本忠長	学会賞, 毎日芸術賞, 吉田五十八賞
宮本佳明	JIA 新人賞
宮脇檀	学会賞
武者英二	日本建築士会連合会賞 特別賞
村上徹	JIA 新人賞, 学会賞, 芸術選奨新人賞
村上美奈子	日本建築士会連合会賞 奨励賞
村野藤吾	学会賞3回, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
村山博美	作品選奨
室伏次郎	学会賞, 作品選奨
毛綱毅曠	学会賞
望月秀祐	日本建築士会連合会賞 特別賞
元倉眞琴	学会賞, 作品選奨, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
森谷重雄	日本建築士会連合会賞 奨励賞
森永俊弥	日本建築士会連合会賞 奨励賞
八木佐千子	JIA 新人賞, 作品選奨
薬師寺厚	学会賞
八島正年	日本建築士会連合会賞 奨励賞
安田臣	学会賞
安原秀	学会賞
柳川陽文	日本建築士会連合会賞 優秀賞
柳川賢次	日本建築士会連合会賞 奨励賞
柳澤孝彦	学会賞, 作品選奨, 作品選奨, 日本芸術院賞, 吉田五十八賞
山崎兌	学会賞
山崎泰孝	学会賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
山下和正	学会賞
山下博満	作品選奨
山田邦彦	作品選奨
山田守	学会賞
山西嘉雄	学会賞
山根正次郎	学会賞
山本忠司	学会賞
山本長水	学会賞, 作品選奨2回
山本理頭	学会賞2回, 作品選奨, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
山本圭介	作品選奨3回
湯澤正信	学会賞
葉祥栄	JAA(旧建築家協会) 新人賞, 学会賞
横河健	学会賞, 作品選奨, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
横田暉生	作品選奨
横山公男	学会賞

氏名	賞
横山正	作品選奨
横山俊祐	作品選奨
吉阪隆正	学会賞
吉田五十八	日本芸術院賞
吉田桂二	学会賞
吉田好伸	学会賞
吉羽逸郎	日本建築士会連合会賞 優秀賞, 日本建築士会連合会賞 奨励賞
吉羽裕子	日本建築士会連合会賞 優秀賞
吉松秀樹	JIA 新人賞
吉村順三	学会賞, 日本芸術院賞, 毎日芸術賞
六角鬼丈	学会賞, 毎日芸術賞, 吉田五十八賞
若林亮	作品選奨
若松久男	日本建築士会連合会賞 奨励賞
渡辺明	JIA 新人賞, 学会賞, 作品選奨
渡辺治	日本建築士会連合会賞 奨励賞
渡部和生	JIA 新人賞, 作品選奨
渡辺豊和	学会賞
渡辺誠	JIA 新人賞, 学会賞, 日本建築士会連合会賞 優秀賞
渡辺真理	JIA 新人賞, 作品選奨

*高橋てい一氏の「てい」の字は、青へんにつくりは光

2.3 大学以前の教育

2.3.1 出身地

表 2-3 意匠関連の建築賞受賞者の出身地

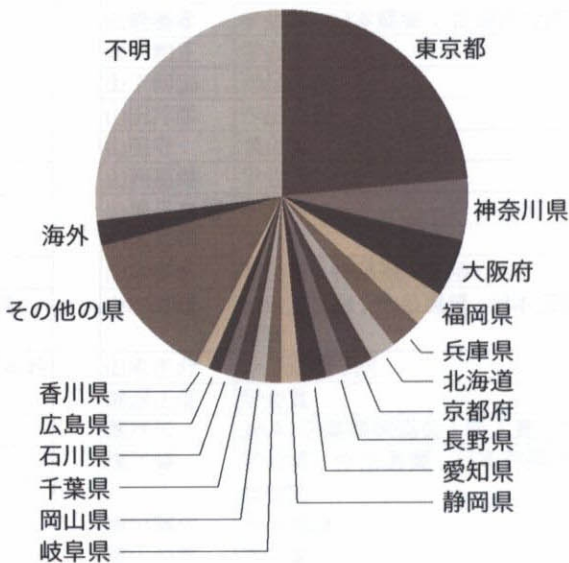
都道府県	出身者数
北海道	8
青森県	0
岩手県	1
宮城県	1
秋田県	2
山形県	3
福島県	2
茨城県	1
栃木県	0
群馬県	1
埼玉県	3
千葉県	4
東京都	82
神奈川県	18
新潟県	1
富山県	2
石川県	4
福井県	0
山梨県	0
長野県	7
岐阜県	5
静岡県	6
愛知県	7
三重県	2
滋賀県	3
京都府	8
大阪府	17
兵庫県	9
奈良県	2
和歌山県	1
鳥取県	0
島根県	3
岡山県	5
広島県	4
山口県	1
徳島県	1
香川県	4
愛媛県	2
高知県	1
福岡県	11
佐賀県	3
長崎県	2
熊本県	2
大分県	2
宮崎県	1
鹿児島県	1
沖縄県	2
海外	8
不明	93
合計	346

調査対象建築家の出身地の調査を行った。その結果を表 2-3 と、図 2-2 に示す。

東京都の出身者が非常に多いことが分かる。東京の人口が多いということが理由の一つであると考えられるが、それだけでは説明がつかないほど、東京に集中している。

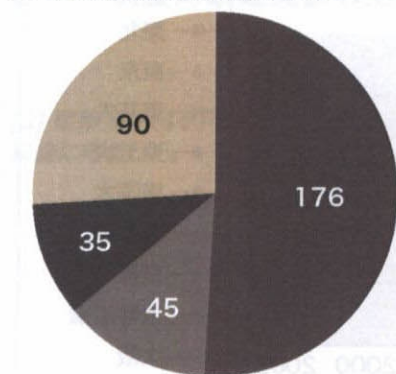
この理由については、文化の集積度の違いなどが考えられるが、統計的な相関や因果を示すことはできなかった。

図 2-2 調査対象建築家の出身地



2.3.2 学力

図 2-3 調査対象建築家の学力



- A ランク (学力が極めて高い)
東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、京都大学、早稲田大学、慶応義塾大学
- B ランク (学力が高い)
北海道大学、東北大学、千葉大学、横浜国立大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、九州大学、東京理科大学、日本女子大学、法政大学、明治大学
- C ランク (学力が普通)
日本大学、芝浦工業大学、武蔵工業大学、武蔵野美術大学、神奈川大学、名城大学、大阪工業大学
- D ランク (学力が普通以下)
その他の大学

表 2-4 主な大学の建築系学科の入学難易度

データは、螢雪時代(旺文社)によるもの。年によって評価基準が異なる可能性があるため、表の横方向の比較は無理があるが、同じ年の大学相互の比較には意味がある。

1995 年以降の国立大学の数値は、センター試験 800 点満点の目標得点であり、その他の数値は、旺文社による偏差値である。

共通一次試験が始まったのは、1979 年度入試からであり、それ以前には、大学の入学難易度を数値化した指標は存在しない。

共通一次以前には、一期校、二期校の区別があった。一期校は、次の 28 大学である。

北大、岩手、東北、お茶の水、東京、東京教育、東芸、東工、東京水産、一橋、新潟、金沢、名古屋、三重、京都、大阪、神戸、奈良女子、鳥取、岡山、広島、徳島、高知、九州、九州芸工、長崎、熊本、宮崎

大学入学以前教育について推し量るひとつの指標として、学力を調査する。ここでは、調査対象建築家の出身大学の偏差値によって大学以前の学力を把握する。

主な大学の偏差値 (またはセンター試験の目標値) と、その推移を表 2-4、図 2-4 に示す。

この結果から、大学を入学難易度別に 4 つのランクに分類し、調査対象建築家を大学以前の学力で分類したものが、図 2-3 である。建築賞を受賞する建築家は、大学以前の学力においても秀でている人が多いことが分かる。(慶応義塾大学はごく最近まで建築学科を持たなかった。図 2-3 に慶応義塾大学があるのは、葉祥栄、谷口吉生の 2 人が慶応義塾大学 (建築以外の学科) 卒業だからである。)

大学	学科	年度					
		1980	1985	1990	1995	2000	2002
北海道大学	建築都市学科		58.3	64.2	620	622	622
東北大学	建築学科	55.6	58.7	64.6	620	613	623
東京大学	建築学科	67.2	74.2	72.1	710	687	697
東京芸術大学	建築科						652
東京工業大学	建築学科	62.1	70.9	68.9	660	631	667
横浜国立大学	建設学科 (シビルエンジニアリングコース、建築学コース、海洋工学コース)		61	63.4	610	642	665
名古屋大学	社会環境工学科 (社会資本工学コース、建築学コース)		63.8	70.4	630	626	641
京都大学	建築学科	63.3	68.8	73.8	690	658	657
京都工芸繊維大学	造形工学科 (造形意匠学、造形建築学、造形文化学)		60.4	62.9	560	608	635
大阪大学	地球総合工学科 (船舶海洋工学、土木工学、建築工学、環境工学)	58.2	62.7	68.4	640	640	644
神戸大学	建設学科 (土木系、建築系)		61.3	66.7	610	606	610
九州大学	建築学科		59.9	65.3	630	625	633
早稲田大学	建築学科	61.9	65.7	71.3	69.5	66.4	62.9
日本大学	建築学科	48.3	51.7	58.6	57.4	56.4	51.5
日本女子大学	住居学科						58.0
武蔵工業大学	建築学科	53.4	55	59.2	56	55.5	51.6
東京理科大学	建築学科	57.7	59.9	65.4	63.8	61.8	62.3
大阪工業大学	建築学科	49.4	51.4	59.5	59.2	53.2	51.5
広島工業大学	建設工学科 (社会建設工学コース、建築工学コース)	45.4	43.6	53.2	53.7	51.2	45.6

図 2-4 主な大学の建築系学科の入学難易度の推移

年によって偏差値は変動するが、大学間を比較すると、順位はあまり変動していないことが分かる。

なお、1995 年以降の国立大学のデータは、センター入試目標値を偏差値に換算してグラフ化している。

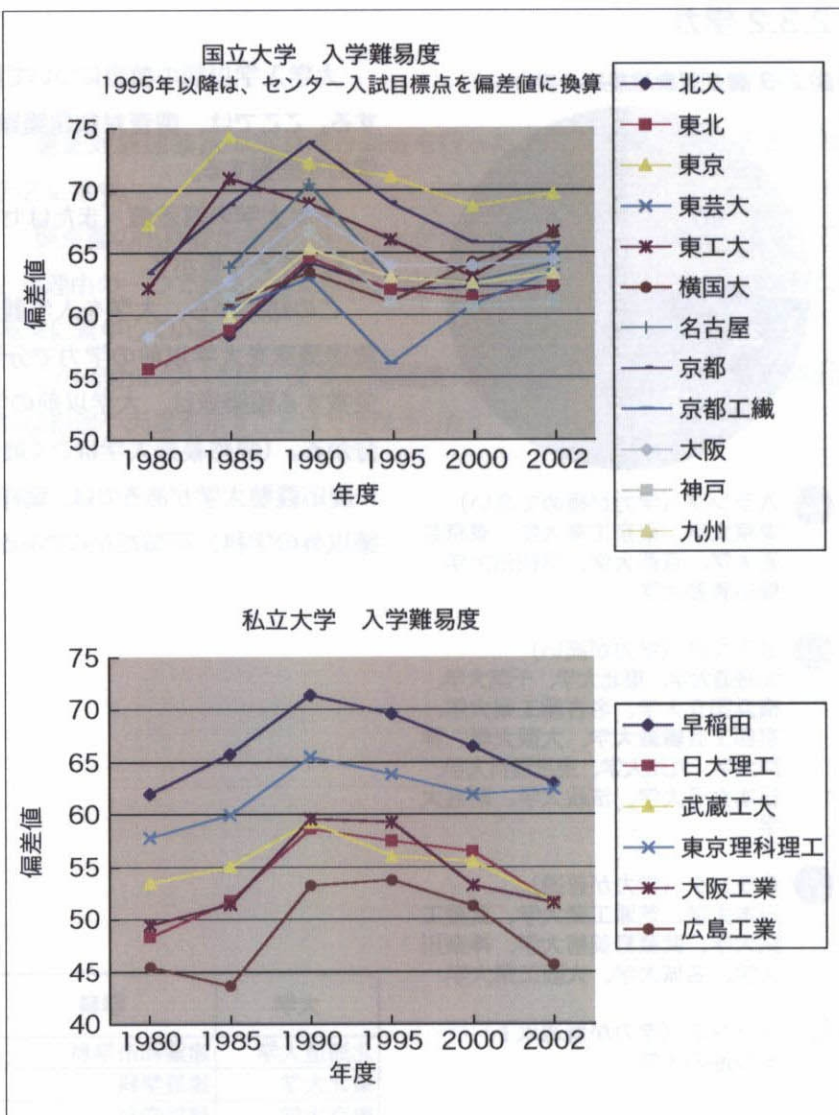


表 2-5 偏差値による大学のランク分け

ランク	国立大学	私立大学
Aランク	東京大学、東京工業大学、東京芸術大学、京都大学	早稲田大学、慶應義塾大学
Bランク	北海道大学、東北大学、千葉大学、横浜国立大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、九州大学	東京理科大学、日本女子大学、法政大学、明治大学
Cランク	その他	日本大学、芝浦工業大学、武蔵工業大学、武蔵野美術大学、神奈川大学、名城大学、大阪工業大学
Dランク		その他

2.4 大学教育

2.4.1 調査対象建築家の出身大学

[3] 建築系学科を持つ大学のリストを資料編に掲載した。

調査対象建築家の出身大学（学部）を調査した結果が図 2-5、大学院の調査結果が図 2-6 である。建築系の学科を持つ大学は全国に 100 あまり存在する^[3]ののだが、優れた建築家を輩出する大学はかなり少なく、しかも偏りが大きいことが分かる。これだけ偏りが大きいということは、それなりの理由があるはずである。

原因の一つとして、大学の定員が考えられる。出身者数を学科の定員で割ったものが表 2-8 および図 2-7 である。早稲田大学は定員が多いが、東京芸術大学は非常に少ないため、図のような結果となる。（大学の定員とその推移を図 2-8 および表 2-9 に示す。）この図でもやはり偏りが見られる。

図 2-5 調査対象建築家の出身大学
(単位：人)

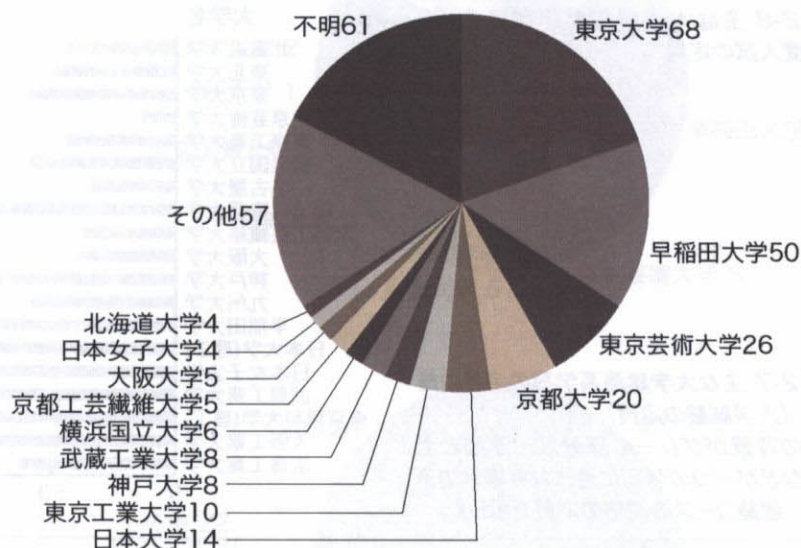


図 2-6 調査対象建築家の出身大学院
複数の大学院に進学した者については両方をカウントした。(単位：人)

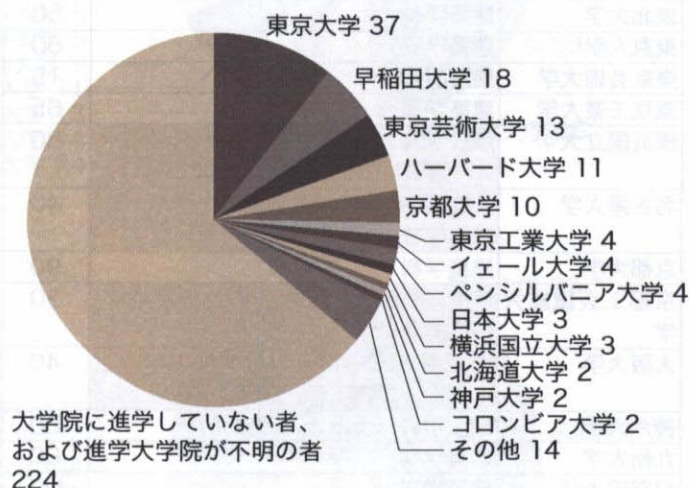


表 2-6、図 2-7 調査対象建築家の出身
大学別の定員に対する割合（人数／定員）

出身大学名(学部)	人数	定員	人数／定員
東京大学	68	60	1.13
早稲田大学	50	145	0.34
東京芸術大学	26	15	1.73
京都大学	20	90	0.22
日本大学	14	180	0.08
東京工業大学	10	65	0.15
神戸大学	8	60	0.13
武蔵工業大学	8	100	0.08
横浜国立大学	6	80	0.08
京都工芸繊維大学	5	30	0.17
大阪大学	5	40	0.13
日本女子大学	4	50	0.08
北海道大学	4	33	0.12

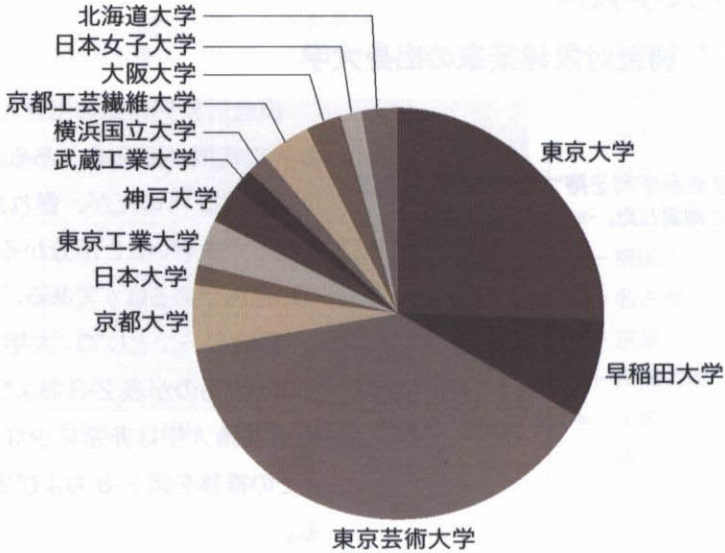


図 2-8 主な大学建築系学科の 2000
年度入試の定員

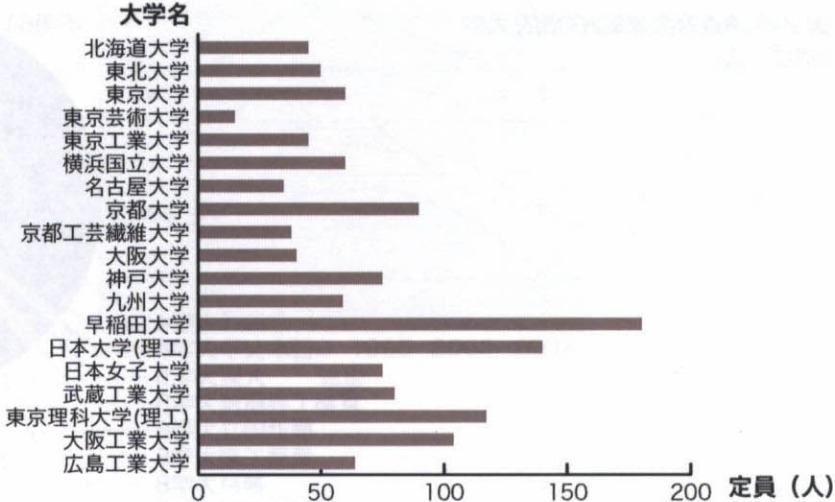


表 2-7 主な大学建築系学科の定員の推移（入学試験の定員）
表の背景がグレーの部分、建築と土木などが一つの学科に含まれる場合であり、建築コースの概略の定員を示した。

大学	学科	年							
		1971	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2002
北海道大学	建築都市学科	33	45	45	45	48	48	45	45
東北大学	建築学科	50	50	50	50	55	55	55	50
東京大学	建築学科	60	60	60	60	65	65	62	60
東京芸術大学	建築科	15	15	15	15	17	17	15	15
東京工業大学	建築学科	65	45	45	45	60	60	45	45
横浜国立大学	建設学科（シビルエンジニアリングコース、建築学コース、海洋工学コース）	80	80	70	70	77	77	64	60
名古屋大学	社会環境工学科（社会資本工学コース、建築学コース）	40	40	40	40	50	50	38	35
京都大学	建築学科	90	90	90	90	95	95	90	90
京都工芸繊維大学	造形工学科（造形意匠学、造形建築学、造形文化学）	30	40	40	40	44	47	40	38
大阪大学	地球総合工学科（船舶海洋工学、土木工学、建築工学、環境工学）	40	42	40	40	45	45	40	40
神戸大学	建設学科（土木系、建築系）	60	60	90	90	110	90	95	75
九州大学	建築学科	60	60	60	60	60	60	60	59
早稲田大学	建築学科	145	145	180	180	180	180	180	180
日本大学	建築学科	180	200	245	160	150	150	150	140
日本女子大学	住居学科	50	50	75	75	75	75	75	75
武蔵工業大学	建築学科	100	80	100	100	90	85	80	80
東京理科大学	建築学科	100	120	120	110	120	93	81	117
大阪工業大学	建築学科	80	110	110	110	110	140	117	104
広島工業大学	建設工学科（社会建設工学コース、建築工学コース）	100	100	230	230	70	70	65	64

また、学会賞などの歴史のある賞では、古い伝統を持つ大学が有利であると考えられる。そのため、1990 年以降の学会賞受賞者の出身大学をグラフにしたが、やはりここでも偏りが見られる（図 2-9）。またリストに表れる大学名は、昔も今もほとんど変わらない。

したがって、優れた建築家を輩出する大学とそうでない大学があり、その原因は大学教育の内容の差異によるものや、伝統に関わるものであることが示唆される。

また、建築学会賞（論文）、および建築学会奨励賞（論文）の受賞者の出身大学も調査を行った（図 2-10, 2-11）。作品部門とは大学の顔ぶれやシェアが変わり興味深い。設計教育に力を入れている大学と、研究に力を入れている大学の差が現れているように考えられる。

図 2-9 1990～2001 年学会賞受賞
建築家の出身大学
数字は人数で合計 45 人

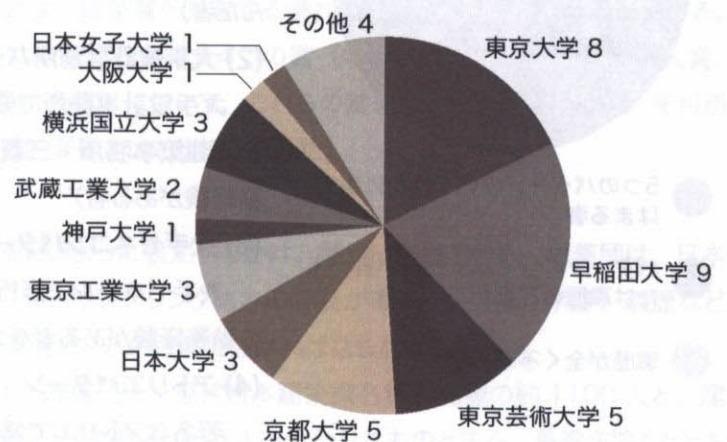


図 2-10 建築学会賞（論文）1949
～2002 年の受賞者の出身大学
数字は人数で合計 382 人

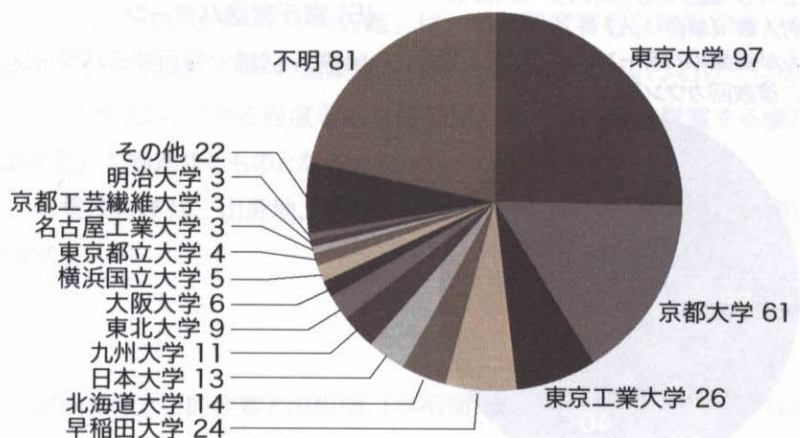
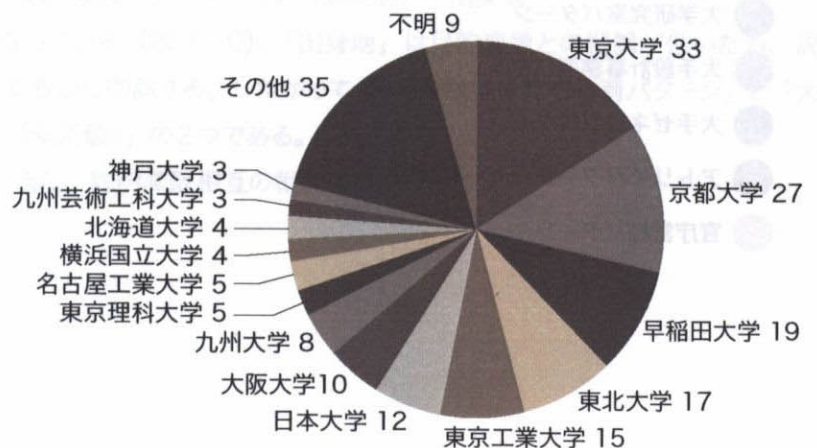


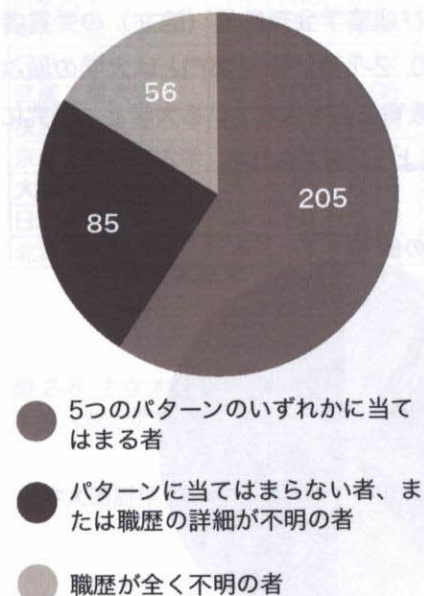
図 2-11 建築学会奨励賞（論文）
1989～2002 年の受賞者の出身大学
数字は人数で合計 209 人



2.5 実務教育

2.5.1 実務教育のパターン

図 2-12 調査対象建築家の職歴の分類
(単位：人)



調査対象建築家の職歴を調査した結果、5つのパターンが見受けられた。全体の約60%は、いずれかのパターンに当てはまる(図2-12)。優れた建築家になるためには、大学教育も重要であるが、職場での実務教育も重要であることは、容易に想像できる。

調査結果は、どのような職場で実務教育を受けることかということが、重要な点であることを示している。

(1) 大学研究室パターン

大学で修行するパターン(大学院博士過程、または複数の大学院で学んだ者)

(2) 大手設計事務所パターン

大手設計事務所で修行するパターン(日建設計・山下設計・日本設計・石本建築事務所・三菱地所・松田平田設計事務所・久米設計ほかでの勤務経験がある者)

(3) 大手ゼネコンパターン

大手ゼネコンで修行するパターン(竹中・清水・大林・大成・鹿島での勤務経験がある者をカウント)

(4) アトリエパターン

著名なアトリエで修行するパターン(受賞者のアトリエで勤務した経験のある者)

(5) 官庁営繕パターン

官庁営繕で修行するパターン(通信省で勤務した経験のある者)

図 2-13 職歴の5つのパターンのパターン別人数(単位：人)
1人が複数のパターンに当てはまる場合は、複数回カウントした

